



“ボーダレス・エリア 近江八幡”を みんなで作るプロジェクト



近江八幡の 魅力を 知りたい 伝えたい

クラウドファンディングで近江八幡の町をバリアフリーに!

NO-MAのある近江八幡の町をバリアフリーにする取り組みを、クラウドファンディングで応援します。芸術祭に訪れた誰もが町歩きを楽しんでもらえるように、店のメニューのバリアフリー化に取り組みます。

詳細はNO-MAホームページをご覧ください。



ボーダレス・エリア近江八幡アカデミー 開講!

アート・福祉・地域をもっと知りたい! に応える

芸術祭の出展作品についての解説に加え、アート・福祉・地域などについての専門家による講義を行います。また、この芸術祭を今後も続けていくための意見交換会も実施し、ボーダレス・エリアの考えを深めていきます。サポーターにご参加される方は、ぜひアカデミーにもご参加ください。なお、オンラインでの受講も受け付けています。詳細は、右記QRコードをご参照ください。



“ボーダレス・エリア近江八幡”をみんなで作るプロジェクトにおける 新型コロナウイルス対応について

- ①主催者として、以下の新型コロナウイルス対策を徹底します。
 - ・スタッフは毎日、検温・体調確認を行い健康管理に努めます。
 - ・スタッフはマスク着用の上で案内いたします。また、こまめな手洗いをいたします。
 - ・館内のドア、手すり、トイレなど、手を触れられる箇所の消毒を強化します。
 - ・館内は密閉した空間にならないよう、定期的に換気を行います。
- ②各種サポーターの皆様には、以下の新型コロナウイルス対策をお願いします。
 - ・自宅を出る際に必ず検温してください。体調不良、発熱があるときは、事務局に報告の上、その日の活動を休止していただきます。
 - ・活動時のマスク着用、こまめな手洗い、手指消毒を徹底していただきます。
- ③来場される方には、以下の対応をお願いします。
 1. 体調不良(例：発熱・咳・咽頭痛・味覚障害などの症状)の方は入館をご遠慮いただきます。
 2. マスク着用、こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒をお願いします。
 3. 観覧中は、他の人との距離を確保していただきます。(できるだけ2m以上/障害のある方等の誘導、介助を行う場合は除きます)
 4. 来場者が多い場合は、入場を制限させていただくことがあります。
 5. 大きな声での会話はご遠慮いただきます。

掲載している写真は昨年芸術祭のものです。

お問い合わせ先/申込用紙送付先

アール・ブリュット魅力発信事業実行委員会事務局(社会福祉法人グロー[GLOW]~生きることが光になる~ 法人本部企画事業部) 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837-2 TEL: 0748-46-8100(平日10:00~17:00) FAX: 0748-46-8228 MAIL: kikaku@glow.or.jp URL: https://www.no-ma.jp/



芸術の魅力に 触れたい 広めたい

アプローチは3通り!

- 1 エデュケーションサポーター
- 2 NO-MA記者クラブ
- 3 会場ボランティア

すべて参加しても OK!

サポーター 募集

近江八幡を 舞台にした芸術祭を 一緒に作り上げましょう



活動期間: 2020年9月~12月 (サポーターによって異なります)
活動場所: NO-MA (近江八幡市永原町上16)、近江八幡市内の複数会場
応募締切: 2020年8月21日(金)

別紙申込用紙に記載のうえ、FAX、メール、郵送のいずれかでお申込みください。
※国籍、性別、資格・経験の有無は不問です。

ボーダレス・エリア近江八幡芸術祭 ちかくのまち

開催期間: 2020年 9月19日(土)~11月23日(月・祝)

アートを鑑賞し、近江八幡の町を探索することを通して、私達の中にあるさまざまな「知覚」を巡る芸術祭です。過去の芸術祭よりもエリアを広げて展開することで、近江八幡にあふれる多様な魅力を発信します。

クラウドファンディング実施 クラウドファンディングで近江八幡の町をバリアフリーに!

主催: アール・ブリュット魅力発信事業実行委員会
構成団体: ボーダレス・アートミュージアムNO-MA (社会福祉法人グロー[GLOW])、滋賀県、滋賀県立近代美術館、近江八幡市、一般社団法人近江八幡観光物産協会、国立大学法人滋賀大学、NPO法人はれたりくもったり、滋賀県施設・学校合同企画展実行委員会
助成: 令和2年度 文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業



“ボーダレス・エリア近江八幡”をみんなで作るプロジェクト

一緒に芸術祭を作り上げていただく 3通りのサポーターを 募集します

すべてのサポーターに
申し込むのもOKです!

この秋、ボーダレス・アートミュージアムNO-MAと近江八幡市の複数会場で開催する芸術祭を、一緒に作り上げていただくサポーターを募集します。来場者や他のサポーターとの交流も魅力です。あなたも、芸術に触れ、近江八幡の魅力を伝えませんか?



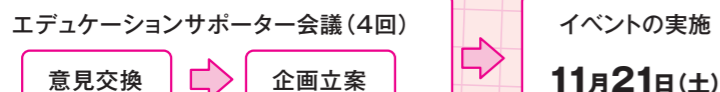
“ボーダレス・エリア近江八幡”をみんなで作るプロジェクトとは
障害のある人が芸術文化を鑑賞することや創作することを地域の人達とともに促進することを通して、誰もが芸術文化に触れることができる環境を作り、地域全体を繋げていくプロジェクトです。

1 教育普及プログラムと一緒に作る エデュケーション・サポーター

アートと人の架け橋となる
“学びの場”を企画します

教育普及プログラムの企画制作を一緒に行うサポーターを募集します。芸術祭を舞台とし、人々がアートと出会い、その魅力を楽しみ、理解を深める、そんな学びの場を一緒に作ります。

活動の流れ



※写真はイメージです。

●活動の内容・条件等

活動場所	NO-MA、近江八幡市内各所
活動内容	エデュケーション・サポーター会議の開催(全4回) 計5回 教育普及プログラム(イベント)の実施
活動日	会議の開催 ①9月26日(土)、②10月3日(土)、③10月24日(土)、④11月7日(土) イベントの実施: 11月21日(土)
応募条件	高校生以上、イベント実施日に参加可能な方 ※応募者多数の場合は活動日数の多い方を優先して受け付けます。
募集定員	5名
交通費	支給有(上限3,000円、源泉所得税含む)

各サポーターは活動期間中、ボランティア保険に加入します。(保険の適用は会場での活動時間内です)

2 作品や町の魅力を伝えたい NO-MA記者クラブ

作品や町の魅力を発信する記者クラブの参加者を募集します。アートに触れ感じたことや、地域のユニークな魅力を、あなたの言葉で記事にして、広く発信していただけます。文章の書き方や撮影のコツなど、事前にレクチャーもあるので、安心して参加いただけます。

展覧会や地域取材して、
あなたの言葉で発信します



●活動の内容・条件等

活動場所	NO-MA、近江八幡市内各所
活動内容	編集会議への参加(期間中2回実施)、取材、撮影、記事の執筆等
活動期間	2020年9月~12月 ※取材日は第1回編集会議で調整を行います。展覧会期間中に取材活動していただけます。
応募条件	高校生以上、編集会議への参加が可能な方
募集定員	10名 ※応募者多数の場合は抽選とします。
編集会議	【第1回】9月19日(土)近江八幡市内 【第2回】12月5日(土)近江八幡市内 ※2回の編集会議への出席は必須となります。
交通費	支給有(上限3,000円、源泉所得税含む) ※編集会議2回分、取材日3回分までが支給対象です。
アドバイザー	北村哲夫氏(京都新聞社メディア局長)

昨年度ご参加いただいた方の声

取材して特に印象深かったことは、参加者が五感をフルに使って、**展示作品との対話**を楽しんでいたことです。

取材していて
本当におもしろかった。
**刺激も興奮も
期待以上**だった。

3 来場者と作品、町の魅力を繋ぐ 会場ボランティア

人と人、人と作品の出会いを、
心を込めてサポートします

来場者をお迎えして、受付対応や展示内容などをご案内するボランティアを募集します。来場者や他のサポーターとの交流もこの活動の楽しさです。事前研修(参加必須)で展覧会や活動の内容をお伝えします。わかりやすいマニュアルも用意しているので、安心してご参加ください。



●活動の内容・条件等

活動場所	展覧会場(近江八幡市内)
活動内容	館内清掃、展示作品の安全確認、受付(チケット確認)、会場監視、展示説明など
活動期間	2020年9月19日(土)~11月23日(月・祝) ※月曜日(祝日の場合はその翌日)は休催のため除く。
活動時間	①午前(10:30~13:30)、②午後(13:30~17:30)、③終日(10:30~17:30 ※昼休憩1時間含む) ※①~③の時間をシフトにあわせてご希望いただけます。
応募条件	高校生以上、下記研修会への参加が可能な方 ※応募者多数の場合は参加いただけないことがあります。
謝金	午前みの場合: 1,250円、午後みの場合: 1,750円、終日の場合: 3,000円 (いずれの場合も源泉所得税含む)
交通費	支給なし
事前研修	事前研修への参加(1回)は必須となります。※研修日の謝金の支給はありません。 ①2020年9月18日(金) 13:00~17:00 ②2020年9月19日(土) 13:00~17:00
その他	昼食は各自でご用意ください。

昨年度ご参加いただいた方の声

作品のすごさ、古民家・
庭園の佇まい、古い町
並み、関係者の人柄など
に感じました。

来場者との会話やサポーター
同士の交流が楽しく、
人との繋がりを
感じることができました。